

わたしたちの生活と食糧生産 ～米づくりのさかんな地域～

目 標

- ・食糧生産に従事している人々の工夫や努力について考え、それらが国民の食糧を確保する重要な役割を果たしていることに理解を深める。
- ・田植えや稲刈り作業体験を通して、携わる人たちの工夫や努力について実感を深めると共に、自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにする。

育てたい力

- 体験を通して、生産者の努力や苦労を感じ取ろうとする力。
- 我が国の食料事情の課題を理解し、自分の食生活に生かす力。

主な学習活動（体験活動：11 時間、単元の学習：社会科 25 時間、家庭科 7 時間）

田植え体験

（6 月 7 日）

- ・恵庭市の島田農園の協力の下、田植え体験を実施した。
- ・全員が裸足になり、水田の土の感触を直に感じながら、10 cm ほどに育った稲を自らの手で植えた。



米作りの さかんな地域 （6～7 月）

- ・私たちの生活と食糧生産における小単元「米づくりのさかんな地域」の一環として生産者の苦労や努力について学習した。
- ・島田農園の方の話や自分が肌で感じたことが学習の理解を深めた。

稲刈り体験

（10 月 11 日）

- ・台風の接近に伴う日程の延期などを経て、一週間遅れで体験を実施した。
- ・台風の影響で荒れた田に足を踏み入れ、自分の手で濡れた稲を刈り取る体験を通して自然の影響と農作物の成長が密接に関わりをもっていることを感じ、普段口にしてしている食物の価値を見つめ直すことができた。
- ・家庭科の調理実習の時間を活用し、自分たちで刈り取った米を実際に炊き、試食会を実施した。
- ・協力をいただいた島田農園に感謝の手紙を書いた。



試食会の実施

（12 月中旬）

取組を終えて

子どもの声（感想）

田植え体験を終え、「初めは泥が気持ち悪かったけれど、後からとても楽しくなった。」「もっと農業をやってみたい。」「カエルを捕まえて楽しかった。」など、どの子どもも普段できない体験に楽しさを感じていた。稲刈り体験では、自分たちが植えた稲が元気に育っていたことや、台風や地震の時の島田さんの畑や地域を守る取組を聞くことで、「農家の方の大変さ」や「作っている作物への愛情や相手への思い」に気付いたという声も多く聞かれた。また、米に限らず「食べ物の好き嫌いをなくしたい。」など、フードロス問題にも目を向ける子が出てきた。

取組の成果

「自分で植えた稲を自分で刈り取る」という体験が、学習への意欲と食糧生産への関心を飛躍的に向上させたことが何よりの成果である。社会科の学習において映像資料や PC での調べ学習のよさもあるが、実際に目で見て、肌で感じるという活動を通して、学習を自分事として捉え、学習内容の定着を図るに留まらず、自分の食生活を見つめ直す意識が高まるなど、大きな成果につながる取組であった。

体験先、関係機関

島田農園（恵庭市）